

令和4年度 第5回広島市感染症対策協議会

- 【日時】 令和4年11月21日（月）19:00～20:00
【場所】 広島市役所14階 第7会議室
【出席者】 小林 正夫、坂口 剛正、吉岡 宏治、高橋 宏明、佐藤 貴、平賀 正文、
増田 裕久、梶梅 輝之、長岡 義晴、岡野 里香、南 心司

1 感染症に関する最近の情報

(1) 新型コロナワクチン接種について（資料1 P1～5）

ア 接種率（11月19日時点実績）

本市におけるオミクロン株対応ワクチンの接種状況は、11.6%（138,262回）であった。

また、5歳から11歳については、1回目の接種率が15.3%（11,682回）、2回目の接種率が14.7%（11,215回）、3回目の接種率が3.5%（2,649回）であった。

イ 乳幼児接種について

国は、令和4年10月13日付けで、関係する政省令等の改正を行い、10月24日から生後6月以上5歳未満の者（乳幼児）への新型コロナワクチン接種を開始した。

本市では、11月14日から該当者への接種券の送付を開始し、市内の58医療機関における個別接種を開始した（11月19日時点実績：34回）。

（委員意見）

- ・ワクチン接種率の向上に向けて、接種勧奨の方法を工夫してほしい。

(2) 新型コロナウイルス感染症に係る対応等について（資料1 P6～11）

11月15日に行われた広島県の記者会見で、感染が再び増加傾向に転じており、感染状況は今後も増加が続く可能性があるとの見解を示している。これに伴い、入院患者も増加のおそれがあるため、11月21日から確保病床について一般フェーズ2（388床）を、一般フェーズ4（517床）まで引き上げることとしている。また、さらに感染が拡大すると、通常医療を制限し、医療に大きな負荷がかかる事態となるため、県民に対し感染対策として屋内のこまめな換気や、発熱等体調不良時に備えて、新型コロナ抗原検査キット（国が承認して「体外診断用医薬品」又は「第一類医薬品」の表示があるもの）や解熱鎮痛薬をあらかじめ準備しておくこと及びオミクロン株対応ワクチンの接種について呼びかけている。

本市の感染状況は、11月20日公表分が1,054名であり、1週間当たりの感染者数は増加傾向が続いている。

今後、気温の低下により屋内での活動が増えることや、年末に向けて、忘年会等の恒例行事によりさらに社会活動が活発になることに留意が必要である。

引き続き、感染者の発生動向に留意するとともに、広島県等と連携して感染拡大防止に向けた取り組みを推進していく。

（委員意見）

- ・感染者のデータを把握しつつ、感染拡大防止の対応をしてほしい。

(3) 9価 HPV ワクチンの定期接種化について (資料1 P12~26)

令和4年11月8日に行われた第50回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会予防接種基本方針部会の中で、9価 HPV ワクチンの定期接種化の是非等について以下の議論がなされた。

- ・ **9価 HPV ワクチンの定期接種開始時期について**

令和5年4月から定期接種を開始してはどうか。

- ・ **接種方法・標準的な接種期間について**

9価 HPV ワクチンの添付文書における用法・用量、用法・用量に関する接種上の注意（接種間隔）の記載が4価 HPV ワクチンと同様であることから、4価ワクチンと同様の扱いにしてはどうか。

- ・ **他の HPV ワクチンとの交接種について**

同じ種類の HPV ワクチンで接種を完了することを原則とするが、交接種における安全性と免疫原性が一定程度明らかになっていることや海外での交接種に関する取扱いを踏まえ、すでに2価あるいは4価 HPV ワクチンを用いて定期接種の一部を終了した者が残りの接種を行う場合には、適切な情報提供に基づき、医師と被接種者等がよく相談した上で、9価ワクチンを選択しても差し支えないとしてはどうか。

- ・ **キャッチアップ接種における取扱いについて**

同じ種類の HPV ワクチンで接種を完了することを原則とするが、すでに2価あるいは4価 HPV ワクチンを用いて定期接種の一部を終了した者が残りの接種を行う場合には、適切な情報提供に基づき、医師と被接種者等がよく相談した上で、9価ワクチンを選択しても差し支えないとしてはどうか。

- ・ **2回接種について**

製造販売業者である MSD 社によると、当該ワクチンの製造販売承認に向けて申請中である。承認がおりた際は、基本方針部会において速やかに定期接種への導入に向けた議論を行うこととしてはどうか。

本市では、引続き厚生労働省の動向を注視する。

(委員意見)

- ・ 国の動向を注視し、適切に対応してほしい。

(4) 世界エイズデーにかかる取り組みについて (資料1 P27~30)

今年の世界エイズデーのキャンペーンテーマは、「このまちで暮らしている。私もあなたも。12月1日は世界エイズデー」であり、HIV 陽性者もそうでない者もともにこの社会で暮らしていることを伝えるテーマとなっている。

本市では世界エイズデーでの取り組みとして、臨時検査及びイベントの開催により、HIV 感染者の早期発見と HIV に関する正しい知識の普及啓発に努めることとしている。

(委員意見)

- ・ 梅毒も含め、1人でも多くの方に検査を受けてもらえるよう、取り組んでほしい。

2 10月の定点把握対象感染症発生状況《公開》(資料2、3)

※感染症法に定められた感染症のうち、指定された医療機関のみが報告を行う感染症

3 全数把握対象感染症の発生状況《公開》

区分	病 名	令和4年10月分	令和4年11月分
		報告日 10/3～11/6	報告日 11/7～11/17 現在
2類	結核	9 人 (患者 2 人、潜在性結核 7 人)	
3類	腸管出血性大腸菌	1 人 (10/25)	
4類	つつが虫病	1 人 (11/4)	4 人 (11/7、11/11、11/14、11/17)
	デング熱	1 人 (10/6)	
	日本紅斑熱	3 人 (10/18、10/19、10/28)	
5類	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1 人 (10/13)	
	急性脳炎	1 人 (10/13)	
	後天性免疫不全症候群	2 人 (10/28、11/4)	
	梅毒	30 人 (10/3(3 人)、10/7(2 人)、10/12(1 人)、10/13(1 人)、10/14(5 人)、10/15(1 人)、10/17(2 人)、10/18、10/20、10/21(2 人)、10/24(2 人)、10/26(4 人)、10/28、10/31、11/1、11/4(2 人))、	3 人 (11/9、11/11(2 人))
新型 インフル	新型コロナウイルス感染症	17,526 人	10,963 人

() は届出日

4 その他《公開》

次回開催予定日 令和5年1月16日(月) 14階第7会議室

【資料】

資料1：最近の感染症情報

資料2：10月の感染症の概要

資料3：定点把握五類感染症(月報対象)の長期的変動

1 患者情報

(1) 概要

定点からの内科・小児科・眼科系疾患の患者報告数は、10月は635人で、前月比0.87とやや減少した。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は大きく増加、感染性胃腸炎、ヘルパンギーナはやや増加、突発性発しんはやや減少、手足口病は減少、RSウイルス感染症は大きく減少した。

(2) 特記事項

- 新型コロナウイルス感染症の新規感染者数は高止まり傾向であったが、第43週（10月24日～10月30日）から増加に転じた（図1）。この冬はインフルエンザと同時流行する可能性が指摘されており、今後の発生動向に注意が必要である。

マスクの正しい着用、手洗い、ゼロ密などの基本的な対策に加えて、体調不良時は登校や出勤を控えるなど、感染対策を徹底することが大切である。また、これから寒くなると屋内で過ごすことが増えるため、「換気の悪い密閉空間」にならないよう、こまめに換気をするのが重要である。

- 日本紅斑熱の今年の累計報告数は13件（11月13日現在）となり、既に昨年の年間報告数の2倍を上回っている。報告数は年々増加しており、2021年は全国で490件と最多を更新した（図2）。日本紅斑熱の発生時期は春から秋であり冬に向けて減少する傾向であるが、ダニ類の一種であるツツガムシが媒介するつつが虫病は、秋から初冬に増えるため、今後もダニ類への注意が必要である。山や草むらに入るときは、長袖、長ズボンを着用するなど、ダニ類に咬まれないようにすることが大切である。

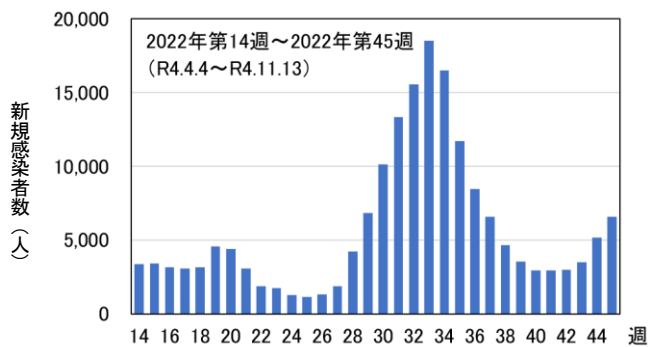


図1 新型コロナウイルス感染症新規感染者数の推移（広島市）

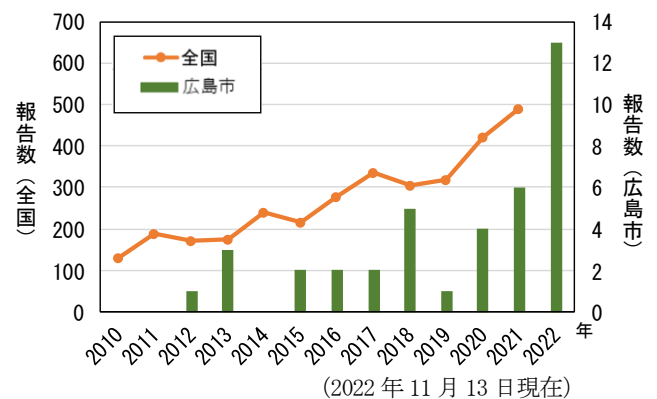


図2 日本紅斑熱の年間報告数の推移

- 梅毒の今年の累計報告数は284件（11月13日現在）となり、既に昨年の年間報告数の2.7倍と非常に多い状況である。梅毒は性的な接触により感染し、治療せずに放置すると、脳や心臓などに重大な病変を起こすことがある。また、妊娠している人が感染すると、胎児に感染し、流産、死産、先天梅毒を起こすことがあるので、感染予防と早期発見・早期治療が重要である。

- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、第45週（11月7日～11月13日）に定点当たり1.23人の報告があり、増加傾向である。新型コロナウイルス感染症の発生以降、流行が見られなくなっていたが、例年春から初夏、秋から冬にかけて患者が多くなる傾向があり、今後の発生動向に注意が必要である。

(3) 10月の1類～5類感染症（全数報告）患者発生数

- 1類感染症：なし
 - 2類感染症：結核9件（患者：2件、潜在性結核：7件）
 - 3類感染症：腸管出血性大腸菌感染症 1件
 - 4類感染症：つつが虫病 1件、デング熱 1件、日本紅斑熱 3件
 - 5類感染症：カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 1件、急性脳炎 1件、後天性免疫不全症候群 2件、梅毒 30件
- 新型インフルエンザ等感染症：新型コロナウイルス感染症 17,526件

(4) 今後の流行予測

梅毒、新型コロナウイルス感染症・・・【増加傾向】発生動向に注意が必要である。

2 検査情報

10 月の検査結果判明分

臨床診断名	検出病原体	検体採取年月	患者数
突発性発疹、 その他の呼吸器疾患（肺炎）	*RS ウイルス *ヒトヘルペスウイルス 6 型	9 月	1 人
ヘルパンギーナ	コクサッキーウイルス A6 型	9 月	1 人
流行性角結膜炎	アデノウイルス 4 型 アデノウイルス 56 型	8 月 8 月	1 人 1 人
その他の消化器疾患（胃腸炎）	パレコウイルス 3 型	8 月	1 人

*：複数病原体検出例

5 人の患者から 6 種類のウイルス 6 株が検出された。検出ウイルスの内訳は、RS ウイルス、ヒトヘルペスウイルス 6 型、コクサッキーウイルス A6 型、アデノウイルス 4 型、同 56 型及びパレコウイルス 3 型各 1 株であった。

5類感染症定点情報
(令和4年10月解析分)

1. 週報対象(第40週～第44週)

No.	疾患名	発生記号	報告数	定点当たり	今後の予測	No.	疾患名	発生記号	報告数	定点当たり	今後の予測
1	インフルエンザ		1	0.03		10	流行性耳下腺炎		4	0.19	
2	咽頭結膜熱		12	0.55		11	RSウイルス感染症	↓	49	2.23	
3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↑	68	3.10		12	急性出血性結膜炎		-	-	
4	感染性胃腸炎	↗	303	13.77		13	流行性角結膜炎		6	0.77	
5	水痘		-	-		14	細菌性髄膜炎		-	-	
6	手足口病	↘	67	3.05		15	無菌性髄膜炎		-	-	
7	伝染性紅斑		3	0.15		16	マイコプラズマ肺炎		-	-	
8	突発性発しん	↖	27	1.23		17	クラミジア肺炎		-	-	
9	ヘルパンギーナ	↗	80	3.63		18	感染性胃腸炎(ロタウイルス)		-	-	

2. 月報対象(10月)

No.	疾患名	発生記号	報告数	定点当たり
1	性器クラミジア感染症	↗	31	3.44
2	性器ヘルペスウイルス感染症		8	0.89
3	尖圭コンジローマ		11	1.22
4	淋菌感染症	↗	16	1.78
5	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	↖	15	2.50
6	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症		-	-
7	薬剤耐性緑膿菌感染症		-	-

発生記号

前月と比較しておおむね1:2以上の増減	↑	↓
前月と比較しておおむね1:1.5~2の増減	↗	↘
前月と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減	↖	↗
ほぼ横ばい(発生件数少数のものを含む)	↗	

予測記号

流行始まり	流 ↗
流行中	流 →
流行終息傾向	流 ↘
終息	終

全数把握感染症報告数(令和4年10月分)

第40週～第44週(10月3日～11月6日)報告分

類型	疾患名	広島市		全 国	
		報告数	累積	報告数	累積
一類	1 エボラ出血熱	-	-	-	-
	2 クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	-
	3 痘そう	-	-	-	-
	4 南米出血熱	-	-	-	-
	5 ペスト	-	-	-	-
	6 マールブルグ病	-	-	-	-
	7 ラッサ熱	-	-	-	-
二類	8 急性灰白髄炎	-	-	-	-
	9 結核	9	103	1,348	12,213
	10 ジフテリア	-	-	-	-
	11 重症急性呼吸器症候群	-	-	-	-
	12 中東呼吸器症候群	-	-	-	-
	13 鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-	-
	14 鳥インフルエンザ(H7N9)	-	-	-	-
三類	15 コレラ	-	-	-	1
	16 細菌性赤痢	-	-	-	14
	17 腸管出血性大腸菌感染症	1	24	371	2,994
	18 腸チフス	-	-	5	16
	19 パラチフス	-	-	1	8
四類	20 E型肝炎	-	2	38	369
	21 ウエストナイル熱	-	-	-	-
	22 A型肝炎	-	-	2	61
	23 エキノコックス症	-	-	3	20
	24 黄熱	-	-	-	-
	25 オウム病	-	-	1	10
	26 オムスク出血熱	-	-	-	-
	27 回帰熱	-	-	7	20
	28 キャサヌル森林病	-	-	-	-
	29 Q熱	-	-	-	-
	30 狂犬病	-	-	-	-
	31 コクシジオイデス症	-	-	-	1
	32 サル痘	-	-	1	6
	33 ジカウイルス感染症	-	-	-	-
	34 重症熱性血小板減少症候群	-	2	13	113
	35 腎症候性出血熱	-	-	-	-
	36 西部ウマ脳炎	-	-	-	-
	37 ダニ媒介脳炎	-	-	-	-
	38 炭疽	-	-	-	-
	39 チクングニア熱	-	-	-	5
	40 つつが虫病	1	1	24	125
	41 デング熱	1	1	28	84
	42 東部ウマ脳炎	-	-	-	-
	43 鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く。)	-	-	-	-
	44 ニバウイルス感染症	-	-	-	-
	45 日本紅斑熱	3	13	121	426
	46 日本脳炎	-	1	4	5
	47 ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	-
	48 Bウイルス病	-	-	-	-
	49 鼻疽	-	-	-	-
	50 ブルセラ症	-	-	1	1
	51 ペネズエラウマ脳炎	-	-	-	-
	52 ヘンドラウイルス感染症	-	-	-	-
	53 発しんチフス	-	-	-	-
	54 ボツリヌス症	-	-	-	1
	55 マラリア	-	1	5	25
	56 野兎病	-	-	-	-
	57 ライム病	-	-	-	13
	58 リッサウイルス感染症	-	-	-	-
	59 リフトバレー熱	-	-	-	-
	60 類鼻疽	-	-	-	2
	61 レジオネラ症	-	28	292	1,908
	62 レプトスピラ症	-	-	12	36
	63 ロッキー山紅斑熱	-	-	-	-
五類	64 アメーバ赤痢	-	4	46	451
	65 ウイルス性肝炎	-	4	16	168
	66 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1	7	272	1,627
	67 急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。)	-	1	8	28
	68 急性脳炎	1	10	37	321
	69 クリプトスポリジウム症	-	-	-	6
	70 クロイツフェルト・ヤコブ病	-	2	15	144
	71 劇症型溶血性レンサ球菌感染症	-	5	65	611
	72 後天性免疫不全症候群	2	10	89	735
	73 ジアルジア症	-	-	2	31
	74 侵襲性インフルエンザ菌感染症	-	-	24	152
	75 侵襲性髄膜炎菌感染症	-	-	-	5
	76 侵襲性肺炎球菌感染症	-	5	161	1,044
	77 水痘(入院例に限る。)	-	4	34	267
	78 先天性風しん症候群	-	-	-	-
	79 梅毒	30	283	1,432	10,744
	80 播種性クリプトコックス症	-	-	14	125
	81 破傷風	-	3	11	87
	82 バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	-	-	-	-
	83 バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-	13	16	123
	84 百日咳	-	4	41	401
	85 風しん	-	-	1	12
	86 麻しん	-	-	-	6
	87 薬剤耐性アシネトバクター感染症	-	-	-	11
新型インフル	88 新型コロナウイルス感染症 ※	17,526	229,374	1,360,385	22,684,120

※全国データは、厚生労働省HPから引用(空港検疫及びチャーター便帰国者を除く)。広島市、全国の累積は2020年からの合計。